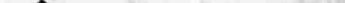




16, Nov. '86 N-YO **308**

1-6, 1-1307, ASAHI MACHI, ABENO, OSAKA, JAP.
Eld: 

大府市あべの通勤
1-6, 1-1307
人才山通信 向井 美
愛知県犬山市第1町666

▼ 4月下旬ほどの二、三日ですぐ死んでおりが、とたへに千エヘノブイリ
原發事故でついつい一ヶ月、そのあとひょんなことから「反日ヤジ風大博
覽会一千人集会」そのあとお末もあわせて四ヵ月、というわけで半年ばかりの
大山・ともかくぼくの居面と、山中・便所・風呂場への通り道^{トレイル}が掃除して
ためしをつくりかけてたら、そつと猫がはいつてきた。とユーノ。ユーノ。
ルほどに近づいて、見上げてキリヒニヤアニヤアなく。次の申のやうに
足跡があつたから、留中入りとんで暮していたらしい。

▼ 大阪から猫をつれてきてたら五匹にもなつて困るナヤと申しながら、上サ
きやつてみつかり、すつかりなついて・毎夕・ホイホイと呼びと、どこから
かとへでくる。ミミツツミミツツミミツツミミツツミミツツミミツツミミツツ
毛布を敷いておいたら、夜はそこへニ匹が抱きあつてはいつている。ばくが
大阪へいってしない時自活できるようだ。心を鬼にして、やさしくしなが
ガマンしている。ヤサシカは最後に残酷となる」ということが身に沁みる。

紙傳之二

11月2日午後、半年留守をしていて「大山」へ行った。
カを開けると、郵便差入口からほうり込まれた広告や郵
便が、土間にうわあとうらばつて、足の踏み場もない。そ
の中で、一通、白い封書が目立った。

拾いあげて、裏が手をみると、差出人は、三重詩人の浜
川弥アさん、三重県南勢町下津浦からだった。八月下旬
旬、不慮の死を遂げたはずの……

彼の計報を、ハル島船を通じて電話で知つたとキ、ハルは
ヘタ・ハラヤナジシ語大博覧会一千人集会への準備で、もう必
死のとキーピツト。葬儀の口取を重んじておこなつた気がする。
だから、たゞ電報をつただけという印象ない別れだった。
そして数日後、「千人集会ニュース」を送ろうとして、
ああ、と、彼宛の封筒をとりのぞいた。そのとき、これで
もう彼とおわかれだなと思った。

彼の手紙は便箋一枚の短いものだつた。

『前略、「三重詩人」旧号ありがとうございます。殆ど手許にないもので、特に50号は誰か余分にもつてないかと探して廻ったところで、大変うれしく思いました。

「（前略）これがダーリーに（あてあつた古文書を）送りたい」と、彼へ送った。そのことの受け取りというべきものである。

「原発反対」のステッカーを、私専用の軽自動車に貼つて（）と（）も行動半径を知っていますが）走つていったのですが、（）また息子がその車で通勤しなければならなくなり、娘に「公務員は政治活動しないか入るや」とはがされてしましました。

この辺の（）と（）も対応）と思うのですが、ステッカーをみて、「私は絶対反対や（）と、反対や」というふもいて、どうもニュアンスの違（）いがあるようですが、「死ぬか生き

